

氏名	山田恵子	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	整形外科学（運動疫学、ロコモティブシンドローム）、公衆衛生学（ヘルスリテラシー）、医療情報学				
学位	博士（医学、東京大学）、修士（医療政策管理学）、修士（公衆衛生学）				
学歴	東京大学医学部医学科卒業、東京医科歯科大学大学院医療政策学修士課程終了、Harvard School of Public Health 公衆衛生学（Clinical effectiveness）修士課程修了				
経歴	2018～ 東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 助教 2022～ 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授				
所属学会（役職）	日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会、日本運動器科学会、日本老年医学会、医療情報学会、American Association of Health Care Journalists				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのためのガイドライン	共著		83P		「サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン開発研究」班	2025.3
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Deep learning-based screening for locomotive syndrome using single-camera walking video: Development and validation study.	共著	あり	○	PLOS Digit Health. 2024 Nov 26;3(11):e0000668.	Kushioka J, Tada S, Takemura N, Fujimoto T, Nagahara H, Onoe M, Yamada K, Navarro-Ramirez R, Oda T, Mochizuki H, Nakata K, Okada S, Moriguchi Y.	2024.11
2	健康日本21第三次におけるロコモティブシンドロームの減少のための方策	単著	なし		JMS 326 12-17	山田恵子	2024.10
3	高齢者のパフォーマンスを上げる-健康日本21(第三次)の取り組みから 3 1万人調査からわかったロコモ対策-ロコモサインに気づいたら	単著	なし		OPJリエゾン (20) 22-24	山田恵子	2024.10
4	健康日本21(第三次)におけるロコモティブシンドロ-ムの減少のための方策-『自分で動ける』を支えるには? 1万人調査からわかったこと	共著	なし		Therapeutic Research 45(10) 635-640	中島康晴, 山田恵子	2024.10
5	ワークショップ活動報告：自己管理を支えるデジタルヘルスツールー生き残るツールの条件とは	共著	なし		医療情報学 44(3) 153-157	青木 美和, 香川 璃奈, 座間 智子, 鈴木 晋, 山田 恵子	2024.8
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	健康に対する個別最適化支援を実現するための、SDHを考慮したデジタルヘルスの活用と今後の課題 運動器領域での個別最適化 IoTを用いて	単独	医療情報学会、福岡市		○山田恵子		2024.11
2	「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」を用いた研修の効果測定に関する研究	共同	ヘルスコミュニケーション学会、横浜市		○山田恵子、井出博生、早川雅代		2024.9

3	全国地域在住者8681人データを用いた痛みとロコモ25の関連	共同	日本運動器科学会、宇都宮市	○山田恵子, 石橋英明, 大江隆史	2024.7
4	全国地域在住者8681人の年代によるロコモ25の出現頻度についての検討	共同	日本運動器科学会、宇都宮市	○山田恵子, 石橋英明, 大江隆史	2024.7
5	ロコモ度とメタボの関係の検討 ～ロコモ1万人調査から	共同	日本整形外科学会、福岡市	○山田恵子, 大江隆史	2024.5
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	健康日本21(第三次)における ロコモティブシンドロームの減少のための方策 ～『自分で動ける』を支えるには? 1万人調査からわかったこと～	単著	公益社団法人 日本整形外科学会 令和6年度記者説明会	○山田恵子	2024.9
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	受託研究		「日本語Plain Language Summary作成に関する研修業務および効果測定に関する研究」	研究代表者	2023-2024.6
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	整形外科学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。また、授業内で小テスト、ITツールも活用し、聞くだけにならないよう、知識の定着に努めた。	
2	リハビリテーション医学概論	○	8	複数の学科の必修・選択科目であることを配慮して、できるだけ簡易な用語を用い、図や動画を多用して視覚的に理解できるように授業を実施した。	
3	リハビリテーション医学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。理解を深めるために毎回授業の後に小テストを行った。	
4	加齢神経運動機能論		2	大学院課程の講義であり、2コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
5	応用人体構造機能論		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを毎回異なる視点から提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
6	フィジカルアセスメント_2023		1	大学院課程の講義であり、1コマであることを考慮して、特定の「運動器のフィジカルアセスメント」に絞った講義を行った。できるだけ1コマの授業で、表題について俯瞰できるような授業構成とし、学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
7	保健医療福祉とリハビリテーション		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、3コマの講義に関しては、特定の「運動器に関するリハ」に絞った講義を行い、学生の理解と学習意欲の向上に努めた。1コマのディスカッションでは、他教員と協力して、学生の統合的な理解が深まるよう努めた。	

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床画像診断演習 A	○	8	整形外科を履修した3年次の理学療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。理解を深めるために授業中も模型等を提示した。
2	臨床画像診断演習 B		8	整形外科を履修した2年次の作業療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。理解を深めるために授業中も模型等を提示した。
3	理学療法特別演習		1	4年生を対象に過去の理学療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。意欲がある者に対しては、さらに過去の過去問を自習できるよう解説したものを利用できるようにした。
4	作業療法総合演習		1	4年生を対象に過去の作業療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	IPW実習		2024.10 学外実習6日間	4年生を対象に、在宅医療や介護の地域医療連携につき、深く学ぶことを現場で支援した。実習施設及び同施設他グループの教員と共に、多業種連携と統合を支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文		主指導（指導教員）	名 副指導（指導補助教員） 2名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	修士論文審査			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ロコモについて知ろう～現役世代から始めるロコモ対策	(一社)健康と経営を考える会	ロコモについて	2025.3
2	PHRを用いたロコモ・フレイル予防	第一回 地域連携 ロコモ・フレイル研究会	PHRを用いたロコモ・フレイル予防	2025.3
3	「医学系研究をわかりやすく発信する手引き」を用いたワークショップ in 北海道	A M E D	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2025.3
4	「知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践」ロコモ予防の2つのポイント～痛みとロコモサインに気をつけよう～	日本学術会議 公開シンポジウム	ロコモサインについて	2025.2
5	「医学系研究をわかりやすく発信する手引き」を用いたワークショップ in 関西	A M E D	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2025.2

6	「医学系研究をわかりやすく発信する 手引き」を用いたワークショップ in 東北	A M E D	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2025.1
7	「医学系研究をわかりやすく発信する 手引き」を用いたワークショップ in 東京（3回）	A M E D	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2024.12
8	「医学系研究をわかりやすく発信する 手引き」を用いたワークショップ in 九州	A M E D	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2024.11
9	PLS作成のためのワークショップ（東京）	小野薬品工業	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2024.10
10	PLS作成のためのワークショップ（大阪）	小野薬品工業	医学系研究をわかりやすく伝えるには	2024.10
（2）国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	ロコモチャレンジ！協議会		委員	2010年 - 現在
2	経済産業省事業 保健医療福祉リアルワールドデータ活用 促進のための国際標準化「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」国際規格開発委員会		委員	2021年 - 現在
3	ISO/TC215/WG11(Health informatics, personalized digital health)		expert member	2021年 - 現在
4	日本医療情報学会, 栄養・運動・口腔保健・休養の自己管理のための保健医療情報研究会		幹事	2021年 - 現在
5	ロコモ関連用語英訳ワーキンググループ		委員	2022年 - 現在
6	日本医学会連合広報委員会 ウェブサイトリニューアル検討ワーキンググループ		委員	2023年 - 現在
7	ISO/AWI TS 16569 Health informatics Standardized Dataset for Exchanging Musculoskeletal Exercise Therapy Recommendations		expert member	2023年 - 現在
8	地域連携ロコモ・フレイル研究会		副会長	2024年 - 現在
（3）ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	日本経済新聞	「ロコモ」進行に4つの兆候 運動機能低下で学会調査		2024.11
2	毎日新聞	要介護リスク高める「ロコモ」 足腰の衰え 兆候を捉えて		2024.11
3	下野新聞（下野）	足腰の衰えで四つの兆候 「ロコモサイン」に注意		2024.11
4	佐賀新聞（佐賀）	足腰の衰えで四つの兆候 「ロコモサイン」に注意		2024.11
5	埼玉新聞（さいたま）	足腰の衰えで四つの兆候 「ロコモサイン」に注意		2024.11
6	ケアマネジメントオンライン	足腰の衰えで四つの兆候 「ロコモサイン」に注意 日本整形外科学会「医療新世紀」		2024.11
7	神戸新聞（神戸）	足腰の衰えで四つの兆候 「ロコモサイン」に注意		2024.11
8	中国新聞（広島）	医療フロンティア		2024.11
9	宮崎日日新聞（宮崎）	「ロコモサイン」に注意 痛みある場合は受診を		2024.11
10	高知新聞（高知）	足腰衰え 4つの兆候注意 「ロコモサイン」		2024.11
11	山口新聞（下関）	医療新世紀 足腰の衰え 四つの兆候 整形外科学会が注意呼びかけ		2024.10
12	デーリー東北（八戸）	医療+新世紀 足腰の衰えで四つの兆候 日本整形外科学会		2024.10
13	十勝毎日新聞電子版	【健康】四つのサインでチェック 早期対策でロコモ予防		2024.10
14	ミクスOnline	日本整形外科学会 ロコモ該当者は推計4160万人 階段昇り降りなど困難の自覚がサイン 1万人調査公表		2024.9

15	十勝毎日新聞（帯広）	四つのサインでチェック 早期対策でロコモ予防	2024.9	
16	苫小牧民報（苫小牧）	四つのサインでチェック 早期対策でロコモ予防	2024.9	
17	四国新聞（高松）	月曜シニア 早期対策でロコモ予防 四つのサインをチェック	2024.9	
18	LINE NEWS	ロコモ、要支援・要介護の原因1位 ～兆候に気付く、ロコトレが大切～	2024.9	
19	Yahoo!ニュース	ロコモ、要支援・要介護の原因1位 ～兆候に気付く、ロコトレが大切～_2	2024.9	
20	時事メディカル	ロコモ、要支援・要介護の原因1位 ～兆候に気付く、ロコトレが大切～	2024.9	
21	陸奥新報（弘前）	早期対策でロコモ予防 前兆に四つのサイン	2024.9	
22	八重山毎日新聞（石垣）	四つのサインでチェック 早期対策でロコモ予防	2024.9	
23	日経メディカル ワークス	日本整形外科学会が4つのロコモの予兆を発表	2024.9	
24	日経メディカル	日本整形外科学会が4つのロコモの予兆を発表	2024.9	
25	ノアドット	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
26	@niftyニュース	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
27	goo ニュース	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
28	Infoseekニュース	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな_2	2024.9	
29	au Webポータル	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
30	dメニューニュース	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
31	Yahoo!ニュース	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
32	日刊ゲンダイ	40代でも危険…要介護リスクを上げる「ロコモティブシンドローム」4つの 困難を見逃すな	2024.9	
（４）その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉未来大学	健康寿命延伸のための講義	2024.6
2	地域貢献活動	地域連携ロコモフレイル研究会	産、官、学が地域連携し、ロコモフレイル対策を行う	2025.3
5．学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	奨励研究部会 部会長		2023.12 - 現在
2	学科等における委員会等	保健委員会 委員		2022.4 - 現在
3	学科等における委員会等	研究推進委員会 委員		2023.12 - 現在
6．受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7．特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8．特記事項				
1	該当なし			